


**海外感染症情報**

情報源：  
厚生労働省検疫所ホームページ  
(<http://www.forth.go.jp>) 新着情報

発生地域	更新年月日	情報内容
—	2015年04月17日	中東呼吸器症候群（MERS）の発生状況（更新18）
アフリカ	2015年04月17日	エボラ出血熱の発生状況（第15週）：補足
東アジア	2015年04月16日	鳥インフルエンザA（H7N9）の発生状況（更新7）
—	2015年04月15日	<b>ヒトと動物に共通するインフルエンザ感染症の概況（更新3）★</b>

### ★【2015年04月15日更新 ヒトと動物に共通するインフルエンザ感染症の概況（更新3）】\*抜粋

#### ■鳥インフルエンザA（H5）ウイルスのヒトへの感染

2003年から2015年3月31日までに、16か国から公式に鳥インフルエンザ（H5N1）感染者826人が検査にて確定診断されたことが公表されました。このうち、440人が死亡しています。

2015年3月3日の更新以降に、エジプトから死亡者11人を含む新たな検査確定患者42人が報告されました。内訳は、エジプトで37人、中国で3人、インドネシアで2人です。

エジプトから報告された鳥インフルエンザ（H5N1）患者37人のうち、14人は2月に、残る患者は3月に発生しました。患者はエジプトの異なる14の行政区域から報告されました。37人の年齢幅は1歳から77歳、中央値は24歳で、10歳未満の患者が38%を占めています。男性と比べて女性がほぼ2倍感染しています。37人のうち8人（22%）が死亡しました。死亡者は全員が10歳以上でした。1人を除いて患者は全員が家禽との接触もしくは家禽市場との接点がありました。残る1人の接触歴を現在調査中です。全ての患者が入院し、全員が抗ウイルス薬による治療を受けました。患者との接触者は14日間の健康監視を受けました。確定患者との接触者からの患者は報告されていません。新たな患者のうち、Sharkia（シャルキーヤ）県で母親と息子の2人による集団感染がありました。2人は同じ日に発症し、2人とも日常的な接触を示唆する裏庭の家禽との接触がありました。

現在、前月及び前年の同月と比べて、エジプトでの家禽におけるインフルエンザA（H5N1）ウイルスの検出と流行の発生件数が増えています。

患者数の増加は、寒さによる家禽に接する機会の増加や環境下でのウイルスの活性時間の延長などによって、より緊密な家禽との接触機会、即ち、家禽におけるインフルエンザA（H5N1）ウイルス流行の増加、小規模の養鶏場や家庭で飼う家禽の増加、公衆衛生上のリスクに対する注意の低下、季節要因、が重なったとみられています。

（以下省略）